

ハブについて 正しい知識

身にひばよ

県内には危険な毒ヘビ(ハブ)が生息するため、ヘビに
対し過剰な恐怖感を抱
いている県民の皆さんは
多いと思われます。しかし、
実際、皆さんが日頃遭遇
するヘビの約半数は無害
なヘビです。ハブの習性や
対策法について正しい知
識を身につければ、無駄な
恐怖は避けられます。



1 県内に生息するハブの種類

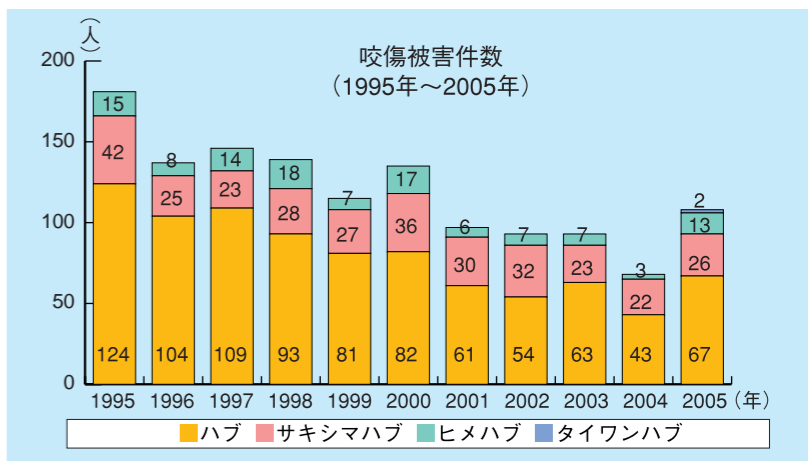
現在、県内に生息する毒ヘビで危険なもの
は、ハブ、ヒメハブ、サキシマハブ、タイワンハ
ブの四種類です。もともと沖縄本島とその
周辺の離島にはハブとヒメハブだけが生息
していました。復帰後、サキシマハブは原産
地である八重山諸島から糸満市に持ち込ま
れ、タイワンハブは中国大陸や台湾から名護
市に持ち込まれ、定着しています。一部地域
では、これら外来のハブ種の捕獲数が、も
もと生息しているハブの約四倍にもなっ
ていることから、注意が必要です。

しかし、日頃実際に皆さんが遭遇するヘ
ビは、その約半数がアカマタなどの害のな
いヘビです。危険な毒ヘビ(ハブ)と害の無い
ヘビを見分ける知識を持ち、日頃感じてい
る過剰なおそれを和らげましょう。



2 ハブの習性

ハブは夜行性で日中は穴などに隠れて
います。産卵は、初夏に穴の中で行われ、誕
生した赤ちゃんは既に毒を持っています。
また、ハブは冬眠すると思われるが、ず
が、ハブを含めた県内に生息するすべての
ヘビは冬眠しません。ネズミ類などの脊椎
動物を、毒で仕留めてから丸飲みして食べ
ます。飢えには強く、水だけで三年間生き
たハブもいました。また、木登りが好きで、
泳ぎも得意です。

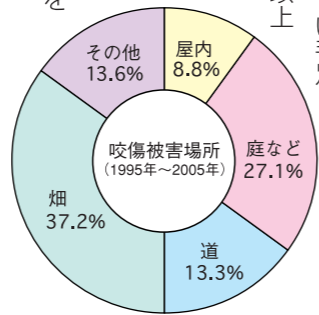


勘違いして いませんか?

- 1 ハブは、生まれたときから毒を持っています。
- 2 毒を持たないアカマタがいるところにハブはいないとされていますが、アカマタとハブは同じ場所にも生息します。
- 3 ハブはジャンプできないので、ハブから一五m以上離れていれば、安全です。
- 4 車でひいたり、叩いて大げがをさせたハブは、逃げたとしてもやがて死にます。
- 5 イオウの粉をまいたり、アヒルを飼うとハブを遠ざけることができるといふ迷信がありますが、全く効果はありません。

3 被害場所と被害箇所

ハブに咬まれる場所は、畑が最も多く、全体の四〇%を占めます。休んでいるハブの近くで、農作業などを行っているときに咬まれるケースが多く、最初にハブに近づきやすい手足の先の被害が九割以上に達します。ハブは、林などが隣接している場合、庭や部屋まで侵入することがあり、日頃の生活を脅かします。



4 ハブを見かけたら

家や畑でハブを見かけたら、パトカーを呼んで対処してもらいます。逃がしてしまつた場合は、ネズミ入りのハブ捕り器を役場から借りて設置しましょう。ハブを退治するスプレーや、ハブを誘導して捕らえるトラップなども市販されています。このほか、草刈りや隠れ場所となる石積み穴の埋め、ハブ用のフェンスを造るなどの地道なハブ対策が重要です。



5 ハブにかまれたら

- 1 ハブに咬まれたのかどうかを確かめます。ハブに咬まれると、牙から入った毒が毛細血管を壊し、五分もしないうちに腫れと痛みをもたらします。
- 2 傷口から毒を吸い出します。専用の吸引器や口で毒を吸い出すことで症状が軽くなります。
- 3 あわてず、ゆっくりと病院へ行きます。走る毒のまわりが早くなるので、ゆっくり移動するようにしましょう。
- 4 病院まで移動に時間がかかる場合、傷口から心臓に近い部分を指が一本通る程度にゆるく縛ります。強く縛ると血の流れが止まって逆効果になることがあります。必ず十五分に一回は弛めましょう。

ヘビの見分け方や対策法を詳しく知りたい方は、
県衛生環境研究所のホームページをご覧ください。

※年間あたり百人前後がハブに咬まれています。死に至る人は数人に一人の割合です。